

令和4年度 学力向上指導改善プラン

三田市立上野台中学校長 藤井 許善

学校教育目標		夢や未来を創造し、確かな学力と豊かな心でたくましく生き抜く生徒の育成					
推進主体		管理職と研究推進担当・関係分掌(情報教育等)・生徒指導担当・教科代表により研究推進委員会(兼 学力向上推進委員会)を設置					
学力に関する前年度の状況・経年の課題等							
学 力 の 状 況	全国学力・学習状況調査結果の状況(国語、算数・数学に関する質問紙調査の結果も含む)	国語	○「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域、「相手や場に応じて敬語を適切に使う」ことを問う設問、「文脈に即して漢字を正しく読む」ことを問う設問において全国平均を大きく上回っていた。 ◆「書く能力」では、すべての設問において全国平均より低い正答率であった。 ◆「書いた文章を読み直し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く」ことを問う設問では、正答率が低く、課題が見られた。				
		数学	○「数と式」の領域では、全国平均と同程度、「図形」の領域では、全国平均をやや上回っている。問題場面における考察の対象を明確に捉える見方や考え方の基本が身につけている。 ○事実だけを追い求めるのではなく、なぜその事実が成り立つのかを重きに置いた取り組みが成果となっている。 ◆多数のデータが示された場面で必要な情報を選択して適切に活用する・説明するなど、「資料の特徴や傾向を読み取り判断することに課題が見られた。 ◆理由の説明が求められる設問では、正答率が全国平均を大きく下回っていることから、数学的な根拠を示して説明することに課題が見られる。				
	定期テスト、単元テストなどによる状況(各教科)	○学年が進むにつれて、テスト勉強に対する意識の高まりがみられる。 ○特に1年生の学習意欲が1年間で大きく高まった。 ◆生徒自身が学習方法を工夫することに課題がある。(経年)					
	授業等からうかがえる状況(各教科)	○コロナ禍で小集団での話し合いやグループワークに制限があった。「聞く」ことに慣れ、「発信力」に課題がある。					
学習習慣・学力向上に慣れる等の状況	全国学力・学習状況調査の質問紙の状況	○「ICT機器を他の生徒と意見を交換したり、調べたりするのどの程度使用しているか。」では、ほぼ毎日と答えた生徒が48.6%であり、全国平均よりかなり高い。文房具のように携帯し、使い慣れていることが分かる。 ○自分には良いところがある。 81%(全国75%) ○友だちと協力することは楽しい。 97.3%(全国93%) ○学校に行くのがどちらかというと楽しい。 92%(全国80%) ○地域の行事に参加している。 73%(全国43%) ○地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある。 56%(全国43%)					
	学校評価などのアンケート調査による児童・生徒の状況	○「授業以外の時間も自主的に学習に取り組んでいる」という項目では、生徒の肯定的評価は約90%と低くはなかったが、保護者の割合が70%程度にとどまり、「意識の差」が気になった。					
研 校 内 研 究 状 況	校内研究の状況	○情報教育担当を中心に、職員対象の研修会の機会を多く設け、タブレットを使った授業の実践に向けて取り組むことができた。 ○「脱講義型」・「脱活動主義型」をキーワードにした授業開発が進んでいる。授業公開駅伝期間を設け、相互研修することができた。					
	校内研修の状況	○いつでも気軽に授業をオープンにしていこうという考えを基本にもち、特に2学期には「授業公開駅伝」として、一人また一人とつながっていくという意味で全職員が授業公開をし、授業力向上を目指した。 ○情報教育担当が中心となり、タブレットの効果的活用を推進するための研修会を何度も実施した。 ○人権教育の研修(地域の保護者、卒業生)を予定していたが、コロナで中止となった。今年度はぜひ実施したい。					
家 庭 ・ 校 種 間 連 携	家庭・地域等の状況	○学校だより、生徒指導通信、教育相談通信、学年だよりを活用し、継続して家庭や地域への啓発を行った。					
	小・中における教科連携等の状況	○4小学校で、小学6年生対象の体験授業を出前授業した。 ○新入生の春休みの課題とその確認テストを実施した。 ○小中で、互いの英語授業を参観し、その後研修会を持った。					
4月～							
学力向上に向けての重点的な目標		成果となる目標	具体的な行動目標				
		(指標となる数値等)	(成果目標達成のための教師の具体的な手立て等)				
<p>1. 授業改善 「分かる・楽しい・伸びる」授業の創造</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・風通しのよい職員室、開かれた授業 ・学校として組織的かつ計画的に取り組む。 ・教科横断的な視点でカリキュラムマネジメントを推進する。 ・タブレットの効果的使用の検証 ・「めあて」と「ふりかえり」を定着 ・各教科の基礎学力の内容を具体化する。 ・生徒自ら学びの成果を把握し、新たな課題を見つける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全員が1回以上の公開授業を行う。(授業公開駅伝という名称で、一人ひとりつなげていく取り組み) ・critical friends(批判的仲間)を目指し、高め合える仲間になる。 ・タブレットを昨年度より一層効果的な活用を目指す。 ・「めあて」を確認し、「振り返り」で自己点検を意識した授業を進める。 ・基礎基本を大切にしたい、取り組みやすい小テストの実施。 ・学習意欲を高め、学ぶ姿勢づくり、授業規律や学習規律の徹底と学習形態の工夫を行う。 ・授業改善を推進し、生徒が「楽しい」「できた」「やった」と実感できる授業実践を進める。 	<p>(今年度の成果と来年度に向けた課題等)</p> <p>タブレットを有効活用するため、教師と生徒が共にオクリンクなどを使えるよう進めた。様々な授業の中で、使える場面を広げることができ、授業の改善、授業力の向上につながりつつある。</p> <p>教師全員が公開授業を行うことができず、互いに授業力を高め合う機会が減ってしまった。小規模校で教師一人一人の調整が難しかったことをうけ、来年度は校内研究授業として日程を設定し、計画的に多くの教師が一斉に学べる時間を作り出した。</p> <p>学習のゴール(めあて)カードを全教室に提示、目標を意識した授業実践をした。</p> <p>基礎基本の習得を大切にしたい小テストを計画的に実施し、生徒の達成感、やる気につながられた。真面目に取り組む生徒の姿が多くみられた。</p> <p>英語授業において「①調査②まとめ③プレゼンテーション」をした際、期待以上の成果となった。関心ある課題を設定することで、生徒のやる気が高まり、よりよい発表につながった。与えられた課題に真面目に取り組める。取り組もうとする生徒たちを、来年度は、自ら課題を見つけて取り組めるように仕組んでいきたい。</p>	評価		
		<p>2. 自主学習の工夫・定着</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・「授業以外の時間も自主的に学習に取り組んでいる」という項目において、生徒、保護者共に80%以上を目指す。 ・自分に合った勉強方法、学習習慣を身につける。 		<ul style="list-style-type: none"> ・今年度より、朝学習や月1回の自主学習時間を始めた。生徒が自ら学ぶ意欲を高めるきっかけとしたい。 ・タブレット、紙ベース、様々な方法を試し、よりよい学びの方法を見つける。 	<p>学校生活アンケートの「授業時間外も自主的に学習に取り組んでいる」という項目において、今年度も生徒と保護者の捉え方に差があった。自主的に学習に取り組んでいる生徒の姿勢やその成果などを生徒、保護者共に実感できるよう学習指導を工夫したい。</p> <p>「ひょうごがんばり学びタイム」(放課後学習)への参加は、呼びかけなどを行い少しずつ増えつつはあるが、更に参加したいと思えるような取り組みを来年度は考えいきたい。</p>
				<ul style="list-style-type: none"> ○家庭学習の習慣の確立 		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の努力を認め、励ます。 ・家庭学習を促すような働きかけをする。実態把握アンケート → 解決できることを支援する 家庭学習の具体的方法を教科より提案する。 	<p>家庭学習の実態を把握するためのアンケートを実施することができなかった。日々の学習習慣の確立は重要であり、個人情報にも配慮しながら基本的生活習慣とあわせて課題を整理して進めていく必要がある。</p>
		<p>3. 生徒会活動の充実</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・「発信力」「対人関係能力」を高める。 		<ul style="list-style-type: none"> ・月1回の専門委員会活動の活性化、学級との連携を図る。 ・活動の見直しと新しい取り組みへの挑戦。 	<p>生徒会役員を中心に活動全体が活発化してきた。生徒の主体的な活動につながりつつある。</p>
				<p>4. 家庭、地域、学校園との連携推進</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導、生徒指導、特別支援教育、キャリア教育で幼小中連携の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・『みんなで育てよう』をもとに実践的な連携を進める。 ・中学校区幼小中全教職員対象合同研修会を実施する。(7月29日予定)
<p>5. 読書活動の推進</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・本や新聞に親しむ時間を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書室の利用者を増やす。 ・朝学習をメインとするが、テスト後などに朝読書の時間を確保する。 			<p>朝読書の時間を昨年度より多く実施した。読書による知識の習得や読解力の向上にもつながりつつある。図書室の利用者も増えてきている。</p>	